

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	誰でも気軽に来れる開放的な場所として、地域との関わりを深めていきたいが、実際にはまだまだ地域との交流・外出機会が少ないため、今後日中の活動を通してより地域の方と接することが出来るよう取り組みたい
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	地域広報は一回しか行ってないので、今後も継続し家族や地域の方に理解していただけるよう取り組んでいきたい。平成21年1月に第二回地域広報予定。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近所を散歩する時に声かけを行っているが、お隣の方のような関係作りがまだ広がっていない。今後も日常的な付き合いができるよう努めていきたい
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今後は地域のミニデイサービスなどにも参加し、同世代の方との交流や地域交流が持てるよう取り組んでいきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者に対するアプローチはまだ行っていません	○	地域の高齢者に対しても目を向け、どんな風に支援していけばいいのかミーティングに取り上げ取り組んでいきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設当初から運営者・管理者・職員は自己評価の内容を検討し、できることから取り組んでいる。	○	平成20年3月開所のため、今回初めての外部評価を受けます。評価結果を真摯に受け止めサービスの向上に取り組んでいきたいです。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、運営推進会議を開催しています。サービスの取り組みや今後の活動について報告し、委員の方から意見をもらうようにしています(平成20年7月・9月開催)	○	活発な意見交換の場とはなっていないため、サービスの評価と運営推進会議を結びつける取り組みをしていきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は運営推進会議のみのかかわりです。	○	市町村担当に対して情報交換を密に行い関係作りを行っていきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護をテーマとした勉強会はまだ行っていません。管理者以外の職員は制度の理解がまだ浅い状況です。	○	今後の勉強会のテーマに取り上げ、職員一人一人が制度を理解できるよう取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開設前のオリエンテーションやミーティングで高齢者虐待について話し合い、職員全体が虐待について意識し防止するように努めている	○	今後も定期的に勉強会やミーティングで話し合い、虐待について意識を高め尊厳あるケアの実践につなげていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み(入居相談)と入居前に、重要事項説明書に基づき利用者や家族へ説明を行っている。特に体調不良時の対応や医療連携についての質問には安心していただけるように詳しく説明を行っている。	○	家族や入居者の不安が解消できるように丁寧な対応を今後も心がけていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス向上委員会の設置、満足度アンケート実施、ご意見箱の設置を行っている。満足度アンケート結果は、玄関に掲示している。また月1回入居者と一緒に職員ミーティングを開催し、行きたい場所や食べたいメニュー、日々の役割について話し合い、意向を行事や役割分担に反映させている。	○	事業所側から利用者本人の意見、苦情を引き出しやすいように働きかけていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の状態や暮らしぶりは、面会時やカンファレンスの際に報告を行っている。また体調不良時はその都度電話連絡を行い、状態報告を行っている。	○	職員の人事に関して報告を行っていないので、今後はグループホームの広報誌を通して、家族にも報告していきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス向上委員会で年一回満足度アンケート実施。その結果や要望・対応策等を玄関に掲示し、家族等へ公表している。また運営推進会議でもアンケート結果について報告し運営に反映させている。グループホーム事業所独自では、玄関靴箱の上にご意見箱を設置いつでも意見を言えるようにしている。(平成20年6月アンケート実施)	○	今後もサービス向上委員会を中心に継続して家族の意見を運営に反映させていきたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月一回ミーティングを実施し職員の意見や企画を聞く機会を設けている。更に管理者は母体施設や法人の会議に参加し運営者へ意見報告し反映させている。例えばイベントや広報など。	○	提案や企画が職員側からもっと活発にで、またそれを運営に反映できるようミーティングだけでなく、職員間のコミュニケーションを密にしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況や行事などによって勤務のシフトを柔軟に変更し対応している。開設当初は環境の変化に慣れない入居者のために夕方以降の勤務者を多めに配置。開設三ヶ月からは日勤帯に勤務者を多めに配置し入居者の活動に対応できるようにした。	○	今後も月一回のミーティングを活用して、入居者や家族の状況の変化、要望に合わせて勤務調整を行い充実した一日を過ごしていただけるような柔軟な勤務体制を検討していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者や家族の不安を軽減するべく、職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員の配属時には、入居者の前できちんと紹介しスムーズになじみの関係になれるよう取り組んでいる。今回、急な退職者が一名あり十分な引継ぎが行き届かなかったことは反省点として挙げられる。	○	今後は、余裕を持って引継ぎが行えるよう運営者側と人事の調整をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間職員研修計画を立てている。開所前オリエンテーションや月一回勉強会を開催、また法人内の職員研修には毎回参加している。外部の研修に関しても情報提供を行っている。</p>	○	<p>管理者以外の職員は、外部の研修参加には至っていないため、今後は参加できるよう取り組んでいきたい</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県内のグループホーム連絡会があることは知っているが、勤務調整がつかずに参加には至っていない。</p>	○	<p>県内のグループホーム連絡会に参加し、他事業所と交流や情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいきたい</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>組織的に管理者や職員の話聞く体制を確保している。また勤務時間中の休憩に関しては、入居者から少し離れた事務所内などで面談できるよう環境にも配慮している。</p>	○	<p>これからも職員がストレスを溜め込まないように、配慮をかかさず続けていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>法人で実施している年二回の健康診断を行っている。また労働基準法に則って職員の労働条件を整えている。母体施設で開催している介護福祉士資格取得勉強会へ職員を参加させている</p>	○	<p>今後も向上心を持って働くことができるよう配慮に努めていきたい</p>
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居相談から本人と会って関係作り始め、困っていることや不安なことを聞けるよう取り組んでいる。入居前の入院先や入所施設へ何度か足を運び顔見知りの関係作りを行っている。</p>	○	<p>今後も同様に取り組んでいきたい</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者本人の話だけでなく、家族の不安なことや要望も聞き、事業所として対応できるよう話し合いを行っている。</p>	○	<p>今後も同様に取り組んでいきたい</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いだけではなく、心身の状況等も加味しながら必要な支援を見極めている。これまでに医療機関への紹介や老人保健施設と連携し入居調整の対応を行っている。	○	今後早急な対応が必要とされるケースの相談があった場合は、地域包括支援センターや地域のケアマネジャー等と連携しながら対応していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人の不安の軽減や入居者や職員と顔なじみになってもらえるよう見学することから始めている。	○	本人が職員や他入居者、ホームの雰囲気慣れ、スムーズにサービス開始につながるよう、入居前体験などに取り組んでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩であると言うことを職員が共有しており普段から入居者に教えていただくことが多い。特に料理の味付けや、沖縄行事に関する学びが多く、一緒に暮らし支え合う関係作りに努めている。	○	今後も入居者の得意分野をもっと引き出す関わりに努めていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族から自宅での暮らしぶりを聞いたり、現在の生活状況をきめ細かく伝えている。また家族参加のピクニックを実施し、離れていても一緒に本人を支えていくという思いを共有できるよう努めている	○	今後も入居者の様子や職員の思いをきめ細かく伝え、家族と同じ思いと一緒に本人を支えていく協力関係を築けるように努めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	年中行事前には、職員から声かけし、外出や外泊を家族と一緒に過ごす機会を作っている。 食事介助で関わる家族や、本人のなじみの場所へ家族とドライブに行く等、本人と家族の関係が途切れないよう支援している	○	今後も施設イベントに参加を呼びかけたり、入居者から家族へ年賀状を書いたり、より関係が途切れないように努めていきたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一度面会に来られた方が、また足を運びやすいように、声かけを行い、関係が途切れないように努めている。また、買い物外出の際には、入居者が生活していた馴染みの場所を通るように配慮し、地域との関係が途切れないよう努めている。	○	知人・友人が遊びに来ることはあっても、入居者が友人宅へ遊びに外へ行くことがないので、気軽に友人宅へ遊びに行けるよう取り組んで行きたい。また面会に来られた友人に本人から感謝の電話などができるよう支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が新聞記事から話題を提供し、入居者同士交流をもち、互いに協働して暮らしている認識を持てるようきっかけ作りを行っている。外出先で入居者が車椅子の介助を協力したり、入居者同士の関係が作れるような働きかけを日々検討し取り組んでいる。	○	左記のような取り組みを行っているが、未だ入居者同士の関わりは薄い為、同じ家に住む仲間として互いに支えあえる関係になれるよう取り組みの検討や検証を行い支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も、関わりを必要とする方に対しては、退去先(病院・老健)での面会や家族との相談など、随時行い関係が途切れないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症により意欲の低下がみられ、希望を聞きだすことが困難な方も日常の会話によって本人の思いを聞き、生活の中に取り入れている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や本人にこれまでの暮らしや、職業などを聞き取り把握に努めている。面会時に家族から本人の暮らしぶりを聞き出すなどし、常に把握を続けている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の状態やバイタルをケース記録に入力、申し送りの際に職員間で情報共有を行い、本人の状態を把握するように努めている。生活・心理面の視点や、できることに注目しその人全体の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、担当職員と話し合い介護計画書の作成を行っている。	○	本人主体の介護計画書作成に取り組んでいきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院後や著しいADLの変化があった場合は、介護計画書の変更を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に入力、また申し送りやミーティングにて職員全員で情報交換・共有を行っている。計画見直し時は、本人・家族・担当職員から話を聞き、より本人にあった計画書となるよう取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	開所間もない為、デイサービスやショートステイは実施していない。家族の面会時には職員から声かけを行い、日々の入居者の情報を提供し、本人や家族から要望を聞き、出来る限り対応できるよう取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	社会福祉協議会のボランティア担当や自治、民生委員やボランティアに働きかけて、協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状では地域の介護保険外のサービスが必要とする事例がない	○	グループホーム入居者が利用できる、地域サービスの把握に努めたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状では家族の支援が得られているので地域包括支援センターへの相談や連携といった困難な状況には至っていない		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関を利用していただいている。受診時はかかりつけ医への情報提供書を発行し必要な医療が受けられるように支援している。	○	入居者が通院している全ての病院と連携が取れているわけではないので、今後情報交換が密にできるよう取り組んでいきたい

沖縄県(グループホーム あおば邸)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>入居者個々のかかりつけ医以外では、母体施設の精神科医、内科医、外科医へ相談し適切な指示や助言をもらっている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>医療連携加算や看護職員の配置は行っていない。しかし母体施設の精神科病院や老人保健施設の看護師と連携し、24時間相談できる体制をとっている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時の情報提供。治療経過の情報交換。退院支援では医療機関から事前連絡をもらい、退院時の主治医面談に同席するなど病院関係者、家族と連携している。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>開設間もないので重度化や終末期の方は対象としていない。しかし日常の健康管理や急変時の対応はマニュアルを作成し統一した対応が取られている。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>まだ検討されていません。</p>	<p>○ 今後検討していきたい</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>開設間もなく、まだ別の居所へ移った方はいません。今後ケースがいた際には、暮らしの継続ができるよう、新しい住まいへの情報提供を行っていきたい</p>	<p>○</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護が必要であっても、その人の自尊心を傷つけることのないように、プライバシーに配慮したケアや声かけ対応法をミーティングで話し合い確認している。また個人情報保護法や情報の漏洩についても日々徹底されているか管理者が確認している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	おやつ時間にお茶やコーヒー、牛乳など飲み物を選択していただいたり、入浴準備前に、本人に洋服を選んでいただいたりし、職員の押し付けにならないように気をつけている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間やおやつ時間、朝の体操時間は決まっているが、その他の時間は本人のペースで過ごしていただいている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	二ヶ月に一回理美容ボランティアに来てもらっているが、行きつけの美容室のある方は継続してその店を利用できるよう支援している。また本人の好みでその日一日を過ごす服を決めていただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一週間の献立作りから入居者の好みを取り入れ買出しから調理、片付けにいたるまで、入居者と協働し行っている。また行事食をメニューに取り入れることで、食を通じた季節を感じ日々の生活に潤いをもたらせるように取り組んでいる。	○ 今後は畑で入居者と一緒に野菜を育てたり収穫し、献立に取り入れていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好みを把握、また意向を確認しながら、一人一人が楽しめるように支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を元に排泄パターンを把握し、トレーニングパンツやオムツを使用している方へもトイレへ座っていただき、気持ちよく排泄できるように取り組んでいる。	○	把握に取り組んでいるが、おむつゼロには至っていないため、気持ちよく排泄できるよう取り組んでいきたい
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望やタイミングで毎日気持ちよく入浴できるよう支援している。また入浴拒否のある方も本人の入浴したいタイミングやサインを見逃さず、入浴できるよう努めている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の睡眠リズムを整えるため、なるべく日中離床を促しているが、本人の希望や状態、これまでの生活リズムによって午睡も行っている。また本人が希望する時間に就寝していただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出や調理、掃除や洗濯など、一人一人が出来る範囲で役割を持ち生活できるよう支援している。	○	入居者一人一人の活力を引き出せる職員の働きかけを強化して、日々の支援につなげていきたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望や本人の状態によって金銭管理をしてもらっている。また外出した時に本人が希望したものを買えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買出しなど、本人の行きたいという希望によって戸外に出かけられるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	事業所の行事として定期的に外出する機会を設けている。車椅子で家族との外出が困難なかたでも施設職員と一緒に外出する機会を作っている。	○	数名の入居者は、意欲低下によりほとんど外出の要望が聞かれない。職員から本人の興味ある場所や関心ごとを引き出し外出の機会へ繋げていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話が掛かってきたときなど、本人に代わり家族と話をしていただいている。	○	離れている家族へ年賀状を送れるよう取り組んでいきたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来た方と入居者の席を配慮したり、お茶やお菓子を出して居心地良く過ごせ、会話を楽しんでいただけるよう工夫している。 また門扉を開放して気軽に尋ねやすい空間作りをしている	○	友人が訪問してくることは少ないため、入居前に家族以外の方が訪問しても良いことを積極的に伝えていきたい
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員、拘束はしないという認識を徹底している。また入居者個々に事故防止対策表を作成し、拘束しなくても安全に生活できるように取り組んでいる。ヒヤリハットが報告された場合もミーティングで対応策を話し合っている。	○	今後も勉強会にて取り上げ、職員一人一人が身体拘束について理解し、ケアに取り組んでいきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が外に出たくなる理由を個別に把握している。実際、外出しそうな様子を察知したら、職員が本人に「どうしたの？」と声をかけたり、一緒に外についてく対応をとっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居間には見守りをする職員を配置している。また事務所も常にドアを開放し入居者の安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態に合わせて保管するものを決定している。その中でも調理に使う包丁や薬は保管管理をしている。手洗い石鹸、消臭剤、台所洗剤などは保管せず、職員見守りのもと日常的に使用している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	安全対策委員会の設置、個々の事故防止対策表の作成、ヒヤリハットの徹底を行い事故防止に努めている。また事故が発生した場合には事故報告書を作成し今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な訓練の実施には至っていない。しかし急変時や事故発生時の対応はマニュアル作成し実践している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度の消防訓練を11月に予定しています。	○	消防避難訓練を行う予定です。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	開設当初、入居者の家族からは施設の要望が聞かれましたが、面会時に家族に対して丁寧に説明を重ねていく対策を取った。個々に起こりうるリスクについて家族に説明し事業所の取り組みに対する理解を得られるように努めている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル値や体調、精神状態の変化などをケース記録や業務日誌に記載し、各勤務帯の交換時に申し送りを行っている。その他体調変化に気づいた時には速やかに職員間の情報共有を行っている。また管理者や母体施設の医師に相談したり、家族連絡をし医療機関への受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用や副作用を張り出し、職員一人一人が効果を理解できるよう取り組んでいる。また処方された薬剤の内容をカルテに綴り、職員がいつでも確認できるよう配慮している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便確認を行い、便秘時は水分や牛乳を多めに、また日課活動に散歩などを取り入れ便秘予防に取り組んでいる。	○	便秘傾向の方について、薬に頼るのではなく、食事内容の検討、体操に取り組んでいきたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけ、見守りを行っている。また一人一人に応じた歯磨きの手伝いをしている。更にチェック表を作成し口腔内の清潔保持につとめている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の管理栄養士と協力し、入居者の好みも取り入れた栄養バランスの取れたメニューを作成している。また一日の毎食事を記録し摂取量の確認を行っている。定時に水分摂取も促している。お粥やキザミ食など、一人一人に合わせておいしくたべやすい食事形態を工夫し提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症防止対策委員の設置、各感染症対策マニュアルを作成し、職員や家族へも予防を呼びかけ対策に努めている。(インフルエンザ・疥癬・ノロウイルス・食中毒)		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	勉強会の中で食中毒について取り上げ、台所・調理用具等の衛生管理について学び実行している。夜間帯に台所の清掃を行い清潔を保つよう取り組んでいる。冷蔵庫の中の食材は担当職員がこまめに点検している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は玄関の門扉を開放し、誰でも気軽に出入りできる環境作りを行っている。玄関先に観葉植物を置き明るい雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの大きな窓から明るい日の光が差し込み、庭の滝の水の音や花木を楽しむことができます。また施設の随所に陶器の焼き物のレリーフを飾り暖かく居心地の良い空間作りにも配慮している。七夕に笹の葉を飾り季節感を出すよう取り組んでいる。	○	今後は、入居者個々の生活背景を理解した上で、安心して居心地良く暮らせる環境作りや季節感のある装飾を取り入れていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じフロアーに食卓テーブルとソファセットを設置し、気分に合わせて過ごせるような居場所の工夫をしている。		

沖縄県(グループホーム あおば邸)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の写真を飾ったり工夫しているが、全入居者のその人らしい居室作りには至っていない。	○	今後は本人の意向を確認しながらその人らしく居心地の良い居室作りに取り組んでいきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室や食堂に室温計を設置し、外気温との差が5℃以上にならないように配慮している。また掃除時には窓を開け換気に努めている。トイレは換気扇をつけ悪臭対策を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間は常夜灯、廊下やトイレに手すりを設置し入居者が安全に移動できるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の能力に合わせて職員が常に見守り声かけして、設備の使い方を覚えてもらい、出来る事を続けていけるように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に季節の花を植え季節感を出し、ウッドデッキでの日向ぼっこや体操を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム あおば邸)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・毎月、イベントを開催し、ボランティアの受け入れをしている。
- ・入居者一人一人の誕生日に手作りケーキを作り、誕生会を開催している。
- ・職員間の連携と情報共有、職員教育に力を入れている。
- ・施設環境では、同法人施設の工房で作成した壁画や滝・居室入り口のレリーフ、門扉のシーサー等焼き物を設置
- ・リビングの大きな窓から差し込む光、洗濯室が明るく清潔なサンルーム。